

I 実践

1 本校の人権教育の目標

法の下での平等の原則に基づき、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育を推進するため、研修計画を位置づけ、教師自らの正しい認識を深め、自他の人権を大切にしたい望ましい人間関係を築こうとする生徒を育てる。

2 実践内容

(1) 生徒のよさを認め励まし、学習意欲の向上に繋げる学習指導の推進

互いに学び合い、認め合う中で、確かな学力を身につけることができるように、授業の改善を行っている。授業の中で、全教師が学び合いの手立てを取り入れた授業を実践している。その学び合いの中で、自分の考えが認められたり、友達の考えに触れたりすることで、仲間と学ぶ楽しさを知ることができ、自己肯定感を高めると同時に、学ぶ意欲を高められるようにしている。また教師は「1時間の授業の中で5回以上ほめる」ことを共通実践として掲げ、生徒のよさを認め励まし、意欲の向上に努めている。

(2) 人権メッセージの作成

生徒全員が人権メッセージを作成し、人権問題や今の社会問題についての自分の考えや、伝えたいことをまとめた。道徳の授業や国語部中心に毎年度全校生徒が「人権作文」の応募を通して、思いやりや命の尊さについて考えたことを、自分の言葉で表現した。身近な「いじめ」の問題をはじめ、高齢者の人権やインターネットによる人権侵害など様々な問題に触れ、考えを深めている。

(3) 総合的な学習の時間での取り組み（令和2年度は未実施）

1学年では、「郷土『日立』」というテーマの中で、身近な地域の方とふれあう時間を設けている。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため、実施できなかったが、地域の高齢者が参加する「ふれあい交流会」では、卓球や郷土かるた、輪投げなどのレクリエーション、給食の会食会を行っている。これらの活動を通して、高齢者を身近に感じるとともに、生徒自身が地域の一員としての役割について考えられるようにしている。

(4) 地域清掃

地域への貢献やボランティア活動を通じての社会参加を目指すこと、学区内公園の清掃活動を通して、郷土愛、奉仕、協力、協働の心を育てるとともに、労働の大切さを考えることができるようにすることを目的とし、クリーン作戦を行った。地域の人々からの支えを実感し、地域の一員であるという意識を高めるとともに、人の役に立ったときの満足感や自己有用感を感じられるようにしている。（資料1）



【資料1 クリーン作戦の様子】

(5) 心と体を大切にするための取り組み

思春期講座として、1年生は「歯と口の健康集会」「喫煙防止教室」、2年生では「薬物乱用防止教室」、3年生では「薬物乱用防止教室」「性に関する学習会」を行い、自分にも目を向け、自身も大切にしようとする気持ちを育てている。

(6) 校長賞の授与

本校では、3つの目標「時間を守る、迷惑をかけない、他人の役に立つことをする」のもと、生徒と教師が同じ目標に向かって行動するように心がけている。特に、「人の役に立つ」という目標に向けた一人一人の頑張りを賞賛するために、「校長賞」を授与している。「熱心な清掃への取り組み」「友人を思いやる行動」「快いあいさつ」など、日常の中で、教師が生徒の良い点を見つけ、推薦している。1年間で全員が受賞できるようにし、自己肯定感の高まりにつなげている。

(7) ハイパーQテスト、いじめに関するアンケート、面談・教育相談の実施

毎年4月と11月にハイパーQテストを1回ずつ実施して、その結果を分析し、学級経営に生かしている。今年度は1学期と2学期に実施した。また、いじめに関するアンケートを毎月実施し、生徒の悩み等を把握するとともに、生徒が安心して学校生活を送れているかを把握できるように努めている。その他には、二者面談を学期に1回行い、事前の生活アンケートをもとに話を聞き、きめ細やかに生徒の見守りができるようにしている。

3 成果

○毎日の生活の中で互いを認め合い、高め合う機会を多くつくることができた。友達が褒められている場面を見ることで、自分もそのように振る舞おうとするようになってきた。校長賞を受賞した生徒が、その行動が自然と行えるようになったり、受賞した友達を褒めたりと、日常の中によりよい行動をしようとする意識が根付いてきている。

II 今後の課題

○道徳科を中心に教育活動全体で人権教育は行われている。新型コロナウイルス感染症という、例年とは違った環境の中で、生徒たちは不安を覚えながらも学校生活を送っていた。今年度は、その中で医療従事者や罹患者を差別することがないよう、幾度となく生徒全員に伝えた。しかし、まだ他者への配慮が足りない言動をしたりする生徒もいた。そのため、生徒中心になり、更に人権を意識した生活ができるように支援していく必要がある。